東京大学の教育・研究における ArcGIS サイトライセンスの利用傾向

中村 和彦，相 尚寿
東京大学 空間情報科学研究センター
連絡先: <k_nakamura@csis.u-tokyo.ac.jp>

(1) 動機：東京大学空間情報科学研究センターでは，米 ESRI 社の ArcGIS サイトライセンスを導入し，教育目的もしくは研究目的で利用することを条件に，東京大学の教職員および学生にソフトウェアを無償配布している．しかし，その利用の実態はこれまで十分に把握されていなかった．そこで，今後のさらなる利用拡大のために，これまでのソフトウェア利用傾向を概観するとともに，今後の利用ニーズの把握を試みた．

(2) 方法：2010 年度より，ArcGIS サイトライセンスのソフトウェアダウンロードに際して，所属部局等の情報を記入してもらうようにし，ダウンロードログをサーバに保存した．このログデータを部局別および月別に集計し，利用傾向の把握を試みた．加えて，2016 年度よりソフトウェア利用方法の講習会を開催し，さらなる利用促進を図るとともに，受講者を対象とした利用ニーズ等に関するアンケートを行った．

(3) 結果：部局別の集計結果（図 1）からは，主な利用分野は工学，農学，新領域であり，特に工学の利用が増加傾向にあることが把握された．また，医学，文学，理学，経済学なども一定の利用があり，今後の利用拡大の可能性が考えられる．月別の集計結果（図 2）からは，4～6 月および 10 月に多くなる傾向があり，各部局の実習等で活用されていることが推測される．また，近年は 12 月のダウンロードが増加しているが，これは卒業研究や修士研究等での利用と思われ，卒論生や修論生を対象とした利用促進の取り組みにも可能性が見出された．これに関連して，2017 年 10 月現在まで計 9 回（表 1）開催した講習会においても学生の参加が多く，卒論・修論に向けたフォローアップの取り組みも検討すべき点の一つと考えられる．また，留学生の参加も一定数あったが，本学には留学生も多いため，今後は英語対応も含めての検討が必要である．

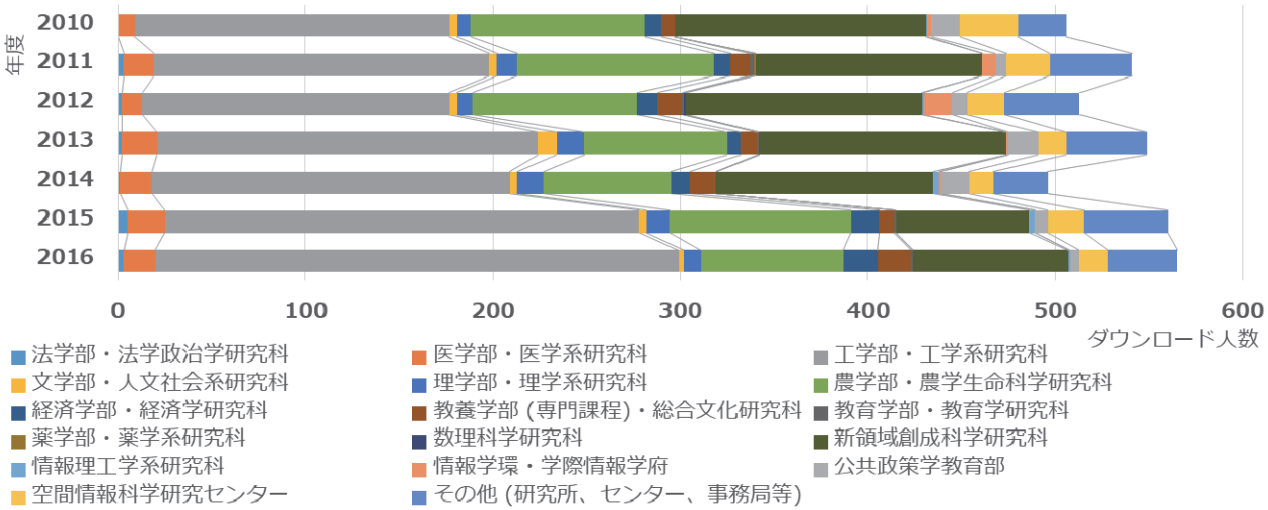

図 1：ArcGIS サイトライセンスのソフトウェアダウンロード数（部局別）
（2010 年度 4 月および 2015 年度 4～6 月欠測のため，当該年度は欠測分を同年度の月平均値で補完した推計値．）

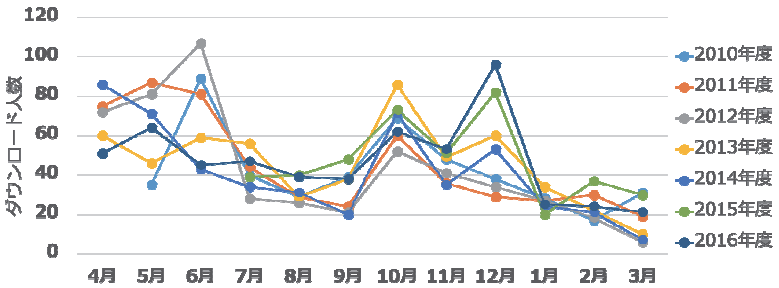

図 2：ArcGIS サイトライセンスのソフトウェアダウンロード数（月別）

表 1：ArcGIS 講習会の開催実績

No.	年/月/日	種別	場所
1	2016/06/08	Desktop 初級	柏
2	2016/08/02	Desktop 初級	駒場
3	2016/08/23	Desktop 初級	本郷
4	2017/02/08	Desktop 中級	柏
5	2017/03/21	Online / Collector	柏
6	2017/04/26	Desktop 初級	柏
7	2017/05/24	Online / Collector	柏
8	2017/06/29	Desktop 初級	本郷
9	2017/07/06	Desktop 初級	駒場